

# 有識者へのヒアリング

多摩大学大学院教授

紺野 登 氏

# 築地を歴史性から見ると

- 外国人居留地になる前は、解体新書を作成した学者たちが住んでいた土地。
- このあたりは歴史的にみると、もともと実験的エリアであった。
- 場所の持っているDNAというのは凄く大事。
- 明治の東京開市にあたって外国人居留地が開かれた歴史もあり、東京の人から見ると、**出島とかぶる**ところもあるのではないだろうか。



# 将来の築地のまちとは

- 外国人がいたり、スタートアップがいたり、研究者がいたりミックスドユースが必要。
- ミックスドユースとは、新しいタイプのエコノミーができるということ。
- やはり人が集まらないとダメ。
- 観光客も大事。
- 人口減少、高齢化を考えると※シェアリングエコノミーは悪くない。

※個人等が保有する活用可能な資産等をインターネットを介して、他の個人等も利用可能とする経済活性化活動(情報通信白書 総務省)

# 将来の築地のまちとは

- 築地を使って、21世紀に相応しい都市にする。  
そういう場所にしないと、とても勿体ない。
- 世界の都市の動きなどを見ながら、東京はどんなふう  
に話題になるのか、都市の戦略が経済戦略となる。
- 築地は、社会実験などができる場所と思う。

# 再開発にあたって

- 次の時代の人のために、長期的視野で考えておかなければならない。20年先を目指すのも悪くない。
- 今は計画主義の時代ではない。一気に計画するのではなく、構想を立ち上げながら、部分的に実験エリアをつくり、資本を集めながらやる。
- プロジェクトベースの構想デザインやハードをつくっておしまいではなく、プロセス(やり方)・手法や世界中の人に興味をもってもらうことも大事。

# 再開発にあたって

- 歴史性から見ても、イノベーションエリアではないか、それを象徴する場所にしていけばよい。
- もっとグローバルに開いた実験的な場所にして、かつこれからの東京のシンボルになる場所というストーリー展開としてはどうか。
- カッコいいも必要。水辺から東京が見られているというのを意識する。アングルを決めて、シンボリックに見せる。

# 築地再開発に求める機能など

- これまでは工業型の経済、これからは知識経済の時代なので、※<sup>1</sup>フューチャーセンターとか※<sup>2</sup>イノベーションセンターとか※<sup>3</sup>リビングラボとか研究、※<sup>4</sup>R&Dが集積する場所にした方が良いと思う。
- 今は、都心の真ん中でも研究を行う時代に入っている。

※<sup>1</sup> 一つの目的のために多様な観点の関係者が集い新しい価値を生み出す場

※<sup>2</sup> 技術・人材・情報を活用し市民等と共創しながらイノベーションに資する調査・開発等を行う場

※<sup>3</sup> ユーザーや市民参加型の共創活動の場

※<sup>4</sup> 研究開発 ( Research and development )

# 築地再開発に求める機能など

- 巨大な**会議室**やイベントスペース、できれば巨大な**イノベーションセンター**、**フューチャーセンター**を作って欲しい。
- **世界規模のシェアリングエコノミーカンファレンス**をやる場所がない。都心にも近い立地であることは大事。
- 洪水になった時には、地下に水をためて、内陸の水害を防ぐなど、**災害に対するメッセージも必要**。



# 有識者へのヒアリング

東京大学大学院教授

廣瀬 通孝 氏

# AR (Augmented Reality) とは

- ※AR (Augmented Reality) という技術は、土地に縛られている。
- 本当のARは、対象地に上手に情報を重畳することによって、その場所がすごく面白く見えてくる技術である。



※拡張現実。コンピューターを利用して、現実の風景に情報を重ね合わせて表示する技術。

# AR技術の活用について

- ・東京の場合はスクラップアンドビルドを繰り返している  
ので、昔の風景がなくなってしまうことが多いため  
情報で残す方法であるARの活用には適した都  
市である。
- ・築地再開発を機会に、  
築地やその周辺でARの  
活用ができると面白い。



東京大学大学院 廣瀬・谷川・鳴海研究室ホームページより

# 教育への活用の可能性

- 教育で抜け落ちている**歴史の教育への活用も考えられる。**
- 時代ごとに別々に歴史を教えるため、接続できずに江戸城と皇居が同じ場所にあることを知らない人もいた。
- AR技術を使い、**かつての東京を学ぶこともできるのではないか。**
- **教育用のコンテンツとしての活用も面白い。**

# 築地の記憶を残すために

- 過去を気持ちとして残すというのと、ハードとして残すというのは上手に切り分けることが大事。
- 思い出にふけるというようなことは、個人ごとに違うので全部をハードでやろうとすると無理がある。
- 将来ARにより築地の映像を体験するために、今の築地市場を撮っておくというのはあるかもしれない。

# 築地とその周辺での可能性

- 都市全体を博物館として見るというのは面白い。
- 銀座から築地にかけて過去をARで振り返ることができるの良いかもしれない。
- 東京のメタボリズムを体験できる場所ということで築地の周辺というのは良いかもしれない。このあたりは歴史のエアポケットという感じがする。
- 銀座・築地アーカイブのようなものは良いかもしれない。

# 築地とその周辺での可能性

- ・メディアアートやパブリックアートができるというのは良い。パブリックアートは、本来はなくても良いものだが、なくなった瞬間にちょっと寂しい。そういうものを目指すのは悪くない。
- ・パブリックアートができる柔軟な利用場所があるなどの配慮が必要。
- ・パブリックアートに関する研究施設のようなものを整備しておいて、様々な実験をやり、メディアアーティストを外部から呼んで盛り上げるというようなことをやっても良い。

# 有識者へのヒアリング

(株)リバネス代表取締役CEO

丸 幸弘 氏



# 将来の築地のまちとは

- ・築地は、食べ物のイメージ。  
そのブランドを残したい。
- ・文化やアートは重要だが、  
「昔ながらの」ではもったいない。
- ・文化やアートに、サイエンスとテクノロジーを融合させるプラットフォームというコンセプトを打ち出してはどうか。
- ・地震が起きたら一番近いところに逃げる。このあたりの人々が逃げ込める場所をつくることも大事。
- ・次の世代に残すという考えの中心地にしていくべき



# 「食」を再定義する

- ・弁当・おにぎり・寿司は、理にかなった食べ物。
- ・梅干・塩・酢で、腐らない。冷めたご飯は糖の吸収を抑えるのでヘルシー。
- ・こういう隠されたサイエンスは、あまり知られていない。
- ・また、冷蔵庫がある生活に変わったから、無塩・減塩の味噌ができた。その味噌で作った老舗のものが、最先端になるなどが新しい文化。
- ・食を科学的に再定義すると、非常に面白い世界になる。

## 再開発に求める機能

- ・先進的な、フードテック、アグリテックのモールにしていくと面白いものが作れるのではないか。
- ・これだけ面積があれば、**野菜工場**で、都内全部の野菜が作れる。**災害時の食糧も賄え、天候不順にも対応**できる。空港にも近く、**流通にも適した場所**。
- ・**高層ビルが一棟あると良い**。
- ・フルオートメーションの野菜工場を見学できたり、併設されたレストランでそれを食べられたり、新しい加工技術が見れたり、最先端の食が味わえたり、**ヘルスケアと食をつなげる技術開発**ができたりする場所。

# 想定する機能のイメージ

- ・22世紀には、食やサプリメントなどで、健康を維持できるようになるのではないか。
- ・ヘルスマール、ウォーキングモールにして、アプリと連携して、カロリーを消費した分だけ、サービスを受けることができ、子供たちが遊ぶ場所やガジェット(電子機器)もつくって、超健康なプラットフォームにする。
- ・テック系のベンチャーが入居できる場所を作る。
- ・健康の先は何か、心の豊かさとは何なのかを考えたい。

# 働く人の視点で考える

- 築地にベンチャーを集積させて、定年で引退した人を「第三新卒」として活用する。「第三新卒」のハブにする。「第三新卒」が、ワクワクしながら最先端のモールで働く。
- 日本は、2030年に超シニアシティになる。超シニアシティになっても、こんなに元気！というのを見せる場所にする。
- 文化があって、テクノロジーがあって、職があって**マインドフルネスの最強の拠点は築地**だというような物語が大事。

# 周辺とのネットワーク・連携

- 周辺とどうネットワークを組んで連携しているかというのが重要。
- 日本橋には製薬会社が集まっている。ヘルスケアの集積、ライフサイエンスのハブ。
- 羽田の跡地はものづくり系。
- 築地をどういうまちにして、そうした周辺とどうリンクエージ(連携)するか、考えないといけない。

## 有識者からの意見

ハーバード大学ライシャワー日本研究所所長  
ライシャワー記念社会文化人類学教授  
テオドル・C・ベスター 氏

# 築地再開発にあたって

- 日本橋から築地、豊洲につながる魚市場が、歴史的に江戸・東京の都市生活の中心であったことを紹介する場とし、

- ①魚河岸が江戸時代の商文化・下町文化に根差す場であったこと
- ②隅田川が都市のライフラインであったこと
- ③東京の人々の重要な生活の一部である魚介類の取引や流通の仕組み

などを表現できると良い。



# 築地再開発に求める機能など

- 新しい複合施設を開発するなら、日本の**食文化を発信する場**となると良い。
- 歴史の展示や映像、料理の実演や料理教室、飲食店を通して、日本食における魚介類の役割を伝えられると良い。
- 飲食店は誰でも利用できるようにすべきで、B級グルメから高級レストランまで含められると良い。
- 食育の要素を入れるよう取り組む。
- 和食が世界遺産に認定されていることを発信できると良い。

# 築地再開発と周辺的环境や地域との関係

- 江戸/東京が水の都であることに注目したミュージアムなどもあると良い。
- 河川や運河など発達した水辺の文化や日本橋などへの水運、木場、台場等の歴史を伝えるのに、築地は最適ではないか。
- 隅田川や東京湾の**水上観光の拠点**にすると面白いだろう。
- 食料品や料理道具、東京の民芸品等に着目した商業環境をつくると良いのではないか。**場外市場や築地魚河岸とのつながりも考えられる。**

# 築地再開発の建築デザイン

- 住民にとっても国内外の観光者にも魅力的な、**優れた建築デザイン**であることがきわめて重要。
- 洗練されたデザイン、機能的なレイアウト、多様な**交流を促進するパブリックスペース**も必要
- 単なる歴史の再現ではなく、近代的で機能的な複合施設の中に**隠喩として伝統的なデザイン要素**を含む

# 築地再開発の建築デザイン

- 偽物の、また過度な歴史的雰囲気演出(昔風の建築、レンタル着物コスチューム、人力車等)は避けるべき。正しく歴史を理解し、築地を最先端の食の中心地と考える国内外の人々を遠ざけることになる。
- しかし、実際の歴史を伝える遺構は残すべき
  - 例1: オープン当時画期的だったバウハウスの影響を受けた建築は何らかの形で記録する
  - 例2: 晴海通り北側に残る魚河岸と関わりのある銅板張りの木造商店等を保存する

# 築地再開発のプロセス

- 築地の計画はできるかぎり包括的で透明であることが肝要。
- 計画に当たっては様々な専門家、関係者の意見を反映すべきであるとともに、**都は全ての決定過程を透明にし、しっかりと公表すべき。**
- そうでなければ、築地を高く評価されるパブリックスペースにしようとして試みても成功しないのではないかと思う。

